

作品No	作家名	作品名	生没年	出身地	備考
1	こいと げんたろう 小糸 源太郎	つゆ空 43.5cm × 63.5cm	明治20年～昭和53年 1887～1978年	東京都	東京美術学校金工科に在籍する傍ら、白馬会菊坂研究所に学ぶ。昭和29年日本芸術院賞受賞。同40年文化勲章受章。
2	すぎやま やすし 杉山 寧	葡萄 31.5cm × 48.5cm	明治42年～平成5年 1909～1993	東京都	昭和8年東京美術学校日本画科卒業。同年第14回帝展特選。その後松岡映丘に師事。同32年日本芸術院賞受賞。同45年日本芸術院会員。同49年文化勲章受章。
3	かぶらき きよかた 鏑木 清方	春の山路 49.0cm × 55.0cm	明治11年～昭和47年 1878～1972	東京都 神田	明治24年水野年方に師事。挿絵作家として活躍するも、富岡永洗、梶田半古の影響を受けて同34年、烏合会を結成。浮世絵から本格的絵画へ転向。大正8年、第1回帝展から審査員を務める。
4	こいそ りょうへい 小磯 良平	静物 50.5cm × 36.0cm	明治36年～昭和63年 1903～1988	兵庫県 神戸市	昭和3年渡仏。同5年帰国。同15年第1回帝国芸術院賞を受賞。同28年東京芸術大学教授に就任。同54年文化功労者、同57年日本芸術院会員。翌58年文化勲章受章。
5	おぎす たかのり 荻須 高德	セーヌ河畔 34.0cm × 25.5cm	明治34年～昭和61年 1901～1986	愛知県 稲沢市	大正10年、川端画学校に学び、翌年東京美術学校に入学。藤島武二の指導を受ける。昭和2年、卒業後仏留学。佐伯祐三と共にパリの下町を描く。同5年パリ個展を開く。同23年戦後初めての日本人画家として仏入国を許可され、以後パリを中心に制作活動を展開。同61年、死後、文化勲章受章。
6	くまがい もりかず 熊谷 守一	裸婦 32.0cm × 22.5cm	明治13年～昭和52年 1880年～1977年	岐阜県	明治33年、東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学。明治42年第三回文展で入賞。洋画の世界で「熊谷様式」ともいわれる独特な様式を確立した。昭和43年文化勲章の内示を辞退。また昭和47年の勲三等叙勲も辞退。
7	どうもと いんしょう 堂本 印象	大空晴る画 34.0cm × 44.5cm	明治24年～昭和50年 1891～1975	京都府	京都市立絵画専門学校本科・研究科。昭和19年帝室技芸員、同25年日本芸術院会員、同36年文化勲章受章。京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校の教授を務める。
8	うえむら しゅうこう 上村 松篁	金魚 32.0cm × 40.5cm	明治35年～平成13年 1902～2001	京都市	大正10年京都市立絵画専門学校在学中に帝展に初入選。以後、日展に出品を重ねるが、昭和23年に日展を脱退し、山本丘人らと創造美術の設立に参加。同34年芸術選奨文部大臣賞を受賞。同41年芸術院賞、同56年芸術院会員に。同58年文化功労者、同59年に文化勲章受章
9	まえだ せいそん 前田 青邨	兎 29.0cm × 37.0cm	明治18年～昭和52年 1885～1977	岐阜県 中津川	明治34年上京。梶田半古に師事。昭和12年帝国芸術院会員、同19年帝室技芸員、同26年～34年まで東京藝術大教授。同30年文化勲章受章。
10	たかやま たつお 高山 辰雄	上弦 32.0cm × 51.5cm	明治45年～平成19年 1912～2007	大分県	昭和11年東京美術学校(現・東京藝術大学)日本画科を卒業。在学中から松岡映丘を師事。同21年第2回日展に裸婦2人を描いた『浴室』で特選。同24年『少女』で日展特選。同42年日本芸術院会員。同50年から52年まで日展理事長。同54年文化功労者。同57年文化勲章を受章。
11	こすぎ ほうあん 小杉 放菴	石榴 53.0cm × 40.5cm	明治14年～昭和39年 1881～1964	栃木県	洋画家・五百城文哉の内弟子となるが紆余曲折の末、明治36年から国木田独歩の主催する近時画報社に籍をおいて挿絵、漫画を描き人気を博した。その後美術誌『方寸』の同人に加わり文展に出品、再興された日本美術院に参加。大正14年、東京大学安田講堂の壁画を手がけた。
12	おの ちつきょう 小野 竹喬	田舎晩秋 39.5cm × 42.0cm	明治22年～昭和54年 1889～1979	岡山県 笠岡市	明治39年に竹内栖鳳に師事。栖鳳より「竹橋」の号を授かる。同44年京都市立絵画専門学校(現:京都市立芸術大学)別科修了。村上華岳、土田麦僊とともに大正7年国画創作協会を結成する。同12年号を「竹喬」と改める。昭和22年京都市美術専門学校教授に就任。同年、日本芸術院会員となる。同51年文化勲章を受章。
13	なかむら がくりょう 中村 岳陵	朝顔 50.0cm × 40.5cm	明治23年～昭和44年 1890～1969	静岡県 下田	川辺御楯に師事し、土佐派を学んだ後、大正元年東京美術学校卒業。昭和22年日本芸術院会員。同36年、朝日文化賞、毎日芸術大賞受賞。同37年文化勲章受章。
14	きした りゅうせい 岸田 劉生	満庭雨潤 35.0cm × 46.5cm	明治24年～昭和4年 1891～1929	東京都 銀座	明治41年、白馬会葵橋洋画研究所に入り黒田清輝に師事。第4回文展に初入選。明治45年、高村光太郎・萬鉄五郎らとともにヒュウザン会を結成。大正7年頃から娘の岸田麗子の肖像を描くようになった。父は明治の先覚者、岸田吟香。
15	ふくだ へいはちろう 福田 平八郎	折鶴 26.0cm × 23.5cm	明治25年～昭和49年 1892～1974	大分県	大正7年京都市立絵画専門学校(現:京都市立芸術大学)卒業。同10年第3回帝展特選。帝展の審査員、京都市立絵画専門学校助教授、京都市立絵画専門学校教授となる。同22年帝国芸術院(同年末日本芸術院)会員。翌年毎日美術賞受賞。同24年日展運営会理事。同33年日展常務理事。同36年文化勲章受章、文化功労者。同44年日展顧問。同49年没、従三位追贈。
16	まつお としお 松尾 敏男	菊 26.5cm × 23.5cm	大正15年～ 1926～	長崎県	堅山南風に師事。院展を中心に活躍し、昭和46年日本美術院同人となる。昭和50年、53年に院展文部大臣賞受賞。昭和63年に多摩美大教授に就任。平成6年芸術院会員。平成12年文化功労者。平成24年文化勲章受章。
17	ごうくら せんじん 郷倉 千靱	朝の小禽 41.5cm × 45.5cm	明治25年～昭和50年 1892～1975	富山県	大正2年東京美術学校日本学科を卒業。後期印象派に傾倒し大正5年に渡米。昭和7年帝国美術学校日本画科教授、昭和11年多摩美術学校日本画科教授、昭和24年日展審査員、昭和35年日本芸術院賞受賞、昭和46年勲四等旭日小綬章受章、昭和47年日本芸術院会員。没後勲三等瑞宝章追贈。
18	うきた かつみ 浮田 克躬	ブラジルオーロブレット風景 41.0cm × 53.0cm	昭和5年～平成元年 1930～1989	東京都	昭和25年東京美術学校油画科卒業。安井曾太郎、田崎廣助らに師事。昭和29年第16回一水会展、昭和32年第13回日展で初入選。以後、一水会展、日展を中心に出品。昭和63年日展にて内閣総理大臣賞を受賞した。
19	はしもと かんせつ 橋本 関雪	竹裡春馬 38.5cm × 44.0cm	明治16年～昭和20年 1883～1945	兵庫県 神戸市	竹内栖鳳の画塾竹杖会に入門。その後文展で連続特選となり官展の代表的画家としての地位を確立した。また中国古典に精通したことで知られ、中国や日本の古典、動物画など多くの作品を残し新南画とよばれる新領域を拓く。大正8年第1回帝展から審査員もつとめた。
20	よこやま たいかん 横山 大観	霊峰富士 32.0cm × 45.0cm	明治1年～昭和33年 1868～1958	茨城県 水戸	明治28年京都市美術工芸学校教授、翌29年東京美術学校教授。同31年岡倉天心らと共に東京美術学校を退職し、日本美術院創立。昭和6年帝室技芸員、同10年帝国美術院会員、のち帝国芸術院会員、日本芸術院会員となり、同25年同会員を辞退。同12年文化勲章受章。
21	やすい そうたろう 安井 曾太郎	ぶどうの囀 37.0cm × 45.0cm	明治21年～昭和30年 1888～1955	京都府	明治37年聖護院洋画研究所で浅井忠に師事。後に関西美術院へ。明治40年渡仏。大正4年帰国。昭和10年帝国美術院会員。同19年帝室技芸員、東京美術学校教授。同24年日本美術評論家連盟初代会長、同27年文化勲章受章。

作品No	作家名	作品名	生没年	出身地	備考
22	やまぐち か よう 山口 華楊	燦花 50.0cm × 37.5cm	明治32年～昭和59年 1899～1984	京都府	西村五雲に師事し、大正5年京都市立絵画専門学校選科に入り、同年文展に初入選。画塾農鳥社を主宰。昭和46年日本芸術院会員。同56年文化勲章受章。
23	かわい ぎょくどう 川合 玉堂	冬の図風景 41.0cm × 57.0cm	明治6年～昭和32年 1873～1957	愛知県	明治20年京都に出て、望月玉泉、幸野樺嶺に円山四条派を学ぶ。樺嶺没後、上京し狩野派の橋本雅邦に師事。大正4年東京美術学校教授。翌5年帝室技能員。同8年帝国美術院会員。昭和15年文化勲章受章。
24	ふくおうじ ほうりん 福王寺 法林	妙義湖 44.0cm × 60.0cm	大正9年～平成24年 1920～2012	山形県	6歳のときに左眼を失明。昭和11年画家を志して上京。同35年「北の海」が日本美術院賞・大観賞を受賞。同52年「ヒマラヤ連峰」で第27回芸術選奨文部大臣賞を受賞。同58年「ヒマラヤの花」で日本芸術院賞を受賞。平成6年日本芸術院会員。同9年勲三等瑞宝章受章。同10年文化功労者顕彰受賞。同16年文化勲章受章、米沢市名誉市民顕彰受賞。同17年山形県名誉県民顕彰受賞。
25	み ぎし せつこ 三岸 節子	花 49.0cm × 28.5cm	明治38年～平成11年 1905～1999	愛知県	女学校卒業後洋画家・岡田三郎助に師事。大正13年に女子美術学校を主席で卒業し、昭和21年女流画家協会を創立。昭和25年第一回芸術選奨を受賞。昭和61年に勲三等宝冠章を受賞。平成6年に女性洋画家として初めて文化功労者となった。
26	やまもと きゅうじん 山本 丘人	見なれぬ路 44.5cm × 52.0cm	明治33年～昭和61年 1900～1986	東京都 上野	大正13年東京美術学校卒業。木の華社に入門し、松岡映丘に師事。昭和3年帝展初入選、同11年文展特選。同39年日本芸術院会員。同59年文化勲章受章。
27	うめはら りゅうざぶろう 梅原 龍三郎	カンヌ港 73.0cm × 56.5cm	明治21年～昭和61年 1888～1986	京都市 下京区	洋画家を志し、浅井忠の聖護院洋画研究所に学ぶ。明治41年渡仏。ルノワールに師事する。大正2年に帰国。昭和10年帝国美術院会員、同19年東京美術学校教授、帝室技芸員、同27年文化勲章受章。
28	おくむら とぎゅう 奥村 土牛	富士 53.5cm × 72.0cm	明治22年～平成2年 1889～1990	東京都	明治38年梶田半古塾に入門。小林古徑の指導を受ける。大正12年日本美術院研究会員。昭和10年帝国美術学校日本画科主任教授。平成2年日本美術院名誉理事。
29	まつばやし けいげつ 松林 桂月	富士 57.0cm × 70.0cm	明治9年～昭和38年 1876～1963	山口県 萩	明治26年上京、野口幽谷に南画を学ぶ。同29年日本美術協会展で受賞。昭和7年帝国美術院会員。帝室技芸員、日本美術協会理事長、日展理事を務める。同33年文化勲章受章。
30	かたおか たまこ 片岡 球子	御殿場の目出度き 富士 72.0cm × 59.0cm	明治38年～平成20年 1905～2008	北海道	安田鞞彦に師事。大正15年女子美術専門学校(現・女子美術大学)日本画科高等科卒業。昭和5年第17回日本美術院展に「枇杷」で初入選。同51年勲三等瑞宝章を受章。同57年日本芸術院会員。同61年文化功労者。平成元年文化勲章受章。同20年に103歳で没、叙従三位。
31	おかだ さぶろうすけ 岡田 三郎助	大石田町(初夏) 44.0cm × 58.0cm	明治2年～昭和14年 1869～1939	佐賀県	明治20年曾山幸彦の画塾に学ぶ。同27年天真道場入門し、黒田清輝の指導を受ける。同30年第1回文部省の留学生として渡仏、ラファエル・コランに師事。同35年帰国。大正8年帝室技芸員。同12年文化勲章受章。
32	おくだ げんそう 奥田 元宋	富嶽秋耀 61.0cm × 73.0cm	大正1年～平成15年 1912～2003	広島県	昭和6年上京し、児玉希望に師事。同11年文展に初入選。同48年芸術院会員。同56年文化功労者、同59年文化勲章受章。日展理事も勤めた。
33	おか しかのすけ 岡 鹿之助	発電所附近 37.5cm × 44.5cm	明治31年～昭和53年 1898～1978	東京都	岡田三郎助に師事。大正13年～昭和14年まで在仏。サロン・ドートンヌ会員となる。昭和39年日本芸術院賞受賞。同44年日本芸術院会員。同47年文化勲章を受章。
34	おおやま ちゅうさく 大山 忠作	新緑 56.0cm × 77.0cm	大正11年～平成21年 1922～2009	福島県 二本松市	昭和21年第2回日展初入選。翌年高山辰雄らの日本画研究団体「一采社」に参加、山口蓬春に師事。同36年日展会員となり、事務局長、理事長などを歴任。同61年日本芸術院会員。平成11年文化功労者。同18年、文化勲章受章。
35	ふじた つくはる 藤田 嗣治	風景 49.0cm × 59.0cm	明治19年～昭和43年 1886～1968	東京都	1905年に東京美術学校西洋画科に入学したがその後渡仏。第二次世界大戦中日本で陸軍美術協会理事長に就任し戦争画を手がけた。再度渡仏しフランス国籍を取得、カトリックの洗礼を受けレオナルド・フジタとなる。フランスからレジオン・ドヌール勲章、ベルギーからレオポルド勲章受章。
36	はやし たけし 林 武	静物 30.5cm × 50.5cm	明治29年～昭和50年 1896～1975	東京都	大正9年、日本美術学校に入学、同年退学。昭和9年渡仏、翌年帰国。同26年～38年まで東京芸術大学教授を務める。同42年、朝日賞、文化勲章を受章。
37	こだま きぼう 児玉 希望	田子の浦 44.0cm × 52.0cm	明治31年～昭和46年 1898～1971	広島県	大正7年川合玉堂の門にはいり、大正25年に伊東深水らと日月社を結成。昭和28年日本芸術院賞受賞。同44年勲三等旭日中綬章受章。帝展審査員・日展評議員・日月社顧問・芸術院会員をつとめた。
38	ちようかい せいじ 鳥海 青児	草根の家 ユカタン 風景 メキシコ 31.0cm × 40.0cm	明治35年～昭和47年 1902～1972	神奈川県	関西大学在学中に春陽会展に初入選し、その後受賞を重ねる。三岸好太郎、横堀角次郎らと麓人社を結成。岸田劉生、ゴヤ、レンブラントに傾倒。渡欧して各国を巡遊した。毎日美術賞受賞、独立美術協会会員。
39	かわばた りゅうし 川端 龍子	花王図 43.5cm × 55.5cm	明治18年～昭和41年 1885～1966	和歌山県	明治39年太平洋画研究所にて洋画を学ぶ。大正2年渡米。「平治物語絵巻」に強く感銘を受け、帰国後、日本画に転向。昭和34年に文化勲章を受章。
40	うだ てきそん 宇田 荻邨	朝あけの松原 43.5cm × 34.5cm	明治29年～昭和55年 1896～1980	三重県	菊池芳文、菊池契月に師事。昭和31年画塾白甲社を創設。昭和42年勲三等瑞宝章受章。帝展審査員、京都市立美術工芸学校教諭、京都市立絵画専門学校教授、日展理事、日展顧問等をつとめた。
41	なかがわ かずまさ 中川 一政	林檎 27.5cm × 45.0cm	明治26年～平成3年 1893～1991	東京都	大正3年巽画会展に出品した作品が岸田劉生に見出されて画家を志す。同11年小杉放庵らと「春陽会」設立に参加。昭和50年文化勲章を受章、文化功労者表彰。同61年石川県に松任市立中川一政記念美術館(現 白山市立松任中川一政記念美術館)開館。平成1年真鶴町立中川一政美術館が開館。
42	もりや ただし 守屋 多々志	花 40.0cm × 30.5cm	大正1年～平成15年 1912～2003	岐阜県 大垣市	昭和5年上京し、前田青邨に師事。同11年東京美術学校卒業。同16年院展初入選。平成8年文化功労者。同13年文化勲章受章。
43	なかわらしん や 中村晋也	太宰治像 高さ51.0cm	大正15年～ 1926～	三重県	昭和24年鹿児島大学講師となり、かたわら彫刻制作をする。同41年フランス留学。同47年鹿児島大学教授。同59年日展文部大臣賞受賞。同63年日本芸術院賞受賞。1989年日本芸術院会員。平成4年鹿児島大学退官、名誉教授となる。同6年日本彫刻会理事長となる。同8年中村晋也美術館を鹿児島県に設立。同11年崇城大学副学長、芸術学部長。勲三等旭日中綬章受章。同14年紺綬褒章受章、文化功労者。同19年文化勲章受章。筑波大学名誉博士。日展顧問。

作品No	作家名	作品名	生没年	出身地	備考
44	きた おおじ 北大路 魯山人	詩文染付花生 高さ36.5cm	明治16年～昭和34年 1883年～1959年	京都府	はじめ書家、篆刻家として名をなし、食客として長浜、京都、金沢などに逗留。その際食器や美食に対する見識を深め、大正14年に会員制高級料亭を始めるなど美食家としても名を馳せた。そのほか画家・陶芸家・書道家・漆芸家としても活動した。
45	むなかた しこう 棟方 志功	驚喜悲願妃図 35.0cm × 34.0cm	明治36年～昭和50年 1903～1975	青森県 青森市	昭和3年平塚運一を訪ね版画を始める。同年帝展に油絵、日本創作版画協会展、春陽会展に木版画を出品、同5年から国画会に主要作品を発表。独自の造詣で自己の木版画を板画といい、また、自ら倭絵と呼んだ肉筆画も描いた。スイスの国際版画展で受賞。同45年文化勲章を受章。
46	ふくおうじ ほうりん 福王寺 法林	富士 60.0cm × 90.0cm	大正9年～平成24年 1920～2012	山形県	作品No.24に同じ。
47	まえだ せいそん 前田 青邨	山の幸 28.0cm × 24.5cm	明治18年～昭和52年 1885～1977	岐阜県 中津川	作品No.9に同じ。

2016/7/6 2016/7/6